

大学名 国立大学法人 鹿児島大学

第68号 特集テーマ「医学・生命科学系の先端研究」

表題 浴室内突然死(入浴死)の発生を予防するためのアラート開発

特色ある取組: 南北600キロと縦に長い鹿児島県。気温差が大きいという特徴を生かし、当分野では13年間で取り扱った入浴死発生日から入浴死の要因の多数を占める環境気温・日内気温差を抽出・統計解析を行いました。



これらの結果を天気予報図のように地図上に表示させることで、入浴死が発生しやすい日を警告、入浴死予防へと繋がります。

防ごう入浴死！安心して入浴できる毎日へ



期待できる成果・評価など

入浴死は高齢社会を背景に増加の一途を辿っており、深刻な社会問題となっています。

入浴死を予防するために、当分野では入浴死が発生しやすい環境気温・日内気温差を記録した日に公式ホームページ内で「入浴死アラート」として注意を促すマークを地図上に自動で表示させるシステムを構築しました。

このような取組みは世界で初めてであり、まさに先端研究と言えます。新聞社の取材も受けており、広く鹿児島県民に周知・入浴死予防を実現できましたら、鹿児島から日本全国へこの取組みが広がっていくことと確信しています。

参考文献・URL:

Development of prevention strategies against bath-related deaths based on epidemiological surveys of inquest records in Kagoshima Prefecture. *Scientific Reports* 13:2277,2023

読売新聞2021年12月12日「#知りたい 寒暖差大きい日 入浴注意」

南日本新聞2021年12月14日「入浴死を防ぐ 脱衣所や浴室を暖めて」; 2021年1月20日「県内入浴死、昨年187人」; 2022年2月26日「県内の入浴死17人減170人」

鹿児島大学法医学分野公式HP <https://www3.kufm.kagoshima-u.ac.jp/legalmed/>

